

研究テーマ名	複雑モデルを用いた圧印時のメタルフローに関する研究
研究内容抄録	<p>有限要素法による解析手法を用いて、実工業に対してのフィードバックをすることができるようになり、レリーフ面の高さなどが、極印のワレへ、どの程度影響するかなどがわかるようになってきた。</p> <p>複雑なモデルへのより効率的な生成方法として、金型の曲率に沿ったメッシュの自動生成方法があり、その方法を活用するため、利用に伴い発生した問題点について調査を行った。</p> <p>シミュレーションと実加工による円形表面のメタルフローの移動量の比較を行った結果、傾向として近い結果が得られ、反対面の模様の影響をシミュレーションでおおよそ再現できることがわかった。</p>
学会発表	